

りませぬね。立地が予定されている地域の住民の方々は、全体的に被害者意識がお強いのですよ。もちろんそれぞれの地域に独自の利害という問題が存在することは無視できません。しかし、基本的には全体のためにある程度奉仕をするというふうには地域の皆さんに理解していただくことが必要なのではないかと思っております。被害者意識もありませんけれども、トータルとして認めなければ、日本のためにならんじやないか、県のためにならんじやないかという一つの大局的見地に立ち、お互いの立場を十分に理解し合った上で、補償すべきは補償し、同時に地域振興のためにどうするか、地域の雇用増大をどう図るかなど、我々もまだ努力しなくてはならないと考えます。これは、単に電源開発だけの問題でなくして、電力事業全体の立場からそういうことが言えると思います。福島県などは本来にその点の理解は進んでおりますし、また原子力発電所を立地させたことによつて非常に地域の振興という問題に寄与していることも事実ですから、まあそういうお互いの立場を越えた理解の和がだんだん広がっていく時期が来たなという気がいたしております。

立地の提供の問題は、単に電気の場合に限られません。新産業や先端産業の誘致をやる

よ。「なんちゆうこつかい。」とね。良く覚えてますが、その時隆元さん「あなた、まあ治るよ。治つたらあなたへたくそはつてん、ゴルフ一緒に連れて行くけんね。」と言つたんですね。後から先生が言つには、「あれは口から出まかせは言つたもんね。えーもこれはとても助からんと、とても助からんから気休め言つてやれと…しかしあなたはほんなこつてよつなつたねえ。あなたは化け物バイ。」つてね。(笑) 本当に五体満足なところはないんです。ですけど先程の教育問題ではありませんが、気概を持ち、くよくよしないことですね。私は、手術前の二カ月間は、食べ物を全然とらずに点滴だけで過こしました。そんな時も明日は明日の風がきやー吹きたいと思つてましたよ。

望まれる総合的判断

「ゴルフは下手で、時たましか行きません。あとは園芸をやりますね。園芸といつても水やりと草むしりですよ。それから家内同伴でショッピングに出掛けます。これは、電車やバスの宙つりの広告等を眺めて、世相の流れを感じとり、時代に取り残されないようにするためなんです。ところで最近感じるのですが、どこの世界でもそれぞれのセクションが

場合もこの考え方が必要ではないでしょうか。ところで熊本の電力自給率は一七・八%程度ですが、東京都とあんまり変わりませんね。東京都もとにかく三〇%ぐらいの自給率は確保したいと都のオビニオンリーダーにも訴えているんですよ。熊本ももつと電源開発の必要があるんですよ。

年一回の親孝行

私は、年一回熊本へ帰つて来るんですよ。私の家内の父親が後藤是山といつて九十七歳の爺さんがいるものですから、年に一度は顔を見せるのが親孝行だと思つてます。という



五高時代の記念写真(本人は後列右端)

細分化された結果、そのセクション間のブリッジがだんだんなくなつてきているようですね。これは現代社会の二つの欠陥ではないでしょうか。たとえおせつかいだと言われても、多少は他人のセクションにも目をつけて、フォローする気持が必要なのではないですか。この連帯社会というものが部分に拘束されて、部分から他の世界へ入れなくなつてしまつたようですね。私が病氣したからというわけにはありませんが、近代医学もまた同様のことが言えると思つてます。医学の各分科の中で、更に細分化がすすみ、トータルとしての人間の生命というものを見よつとしないところに近代医学の盲点があるんですよ。ですから、ガンの疑いがあつて調べに行つても、その部分だけしか見ないから、そのちよつとほかの場所になるともつ見つからないといつことになる。これは近代医学といつより、細分化・専門化された西洋医学の欠点といえましょつ。その点東洋医学は全体をつかんでいくことに特徴がありますね。従つていかに東洋医学と西洋医学を結合するかといつのは、時代の要請じゃないかといつ気がしますけどね。会社にしる官庁にしる、社会組織の分化が進みます、そこにトータルとしての把握、全体としての判断といつものがだんだん欠けていくん

のも私は親不孝の連続で、とにかく父親は復員する二三月前になくなりましたし、母親の方は、亡くなる前の晩に「ハハキトフ」と電報が来ていたのをすくさま配達せず、翌朝配達してきたので、結局帰りが着いた時は一時間前に死んでたんですよ。不孝の限りを尽して親の死に目にも会つていないんですよ。ですので、罪の償いをしようという殊勝な気持ちでいるんですよ。

大腸摘出手術

私は、この十五年くらいは病氣ばかりしてました。腹を四回切りましたからねえ。医療ミソで大腸をとられてしまいましたよ。とにかく、いへら酒が好きだと言つたつて、九十八度のアルコールを五百ccも尻から入れられたんだからたまつたもんじやないですよ。腹わた焼けただれたもんだから、大腸はみんな摘出しましたよ。もうちよつと奥まで入つておつたら死んでましたね。いよいよ手がつかないという状態で、大腸摘出の手術を受けることが決まつて、その二日前でした。細川隆元さんが初めてはくがそつという事故にあつたのを聞いて病室に飛び込んで来て言つてす

じやないかといつ気がしますね

無駄をなくし活きた県政を

未来を展望した場合、来る二十一世紀に向けて、活性化・効率化といつものがあらゆる面から追求されるべきでしょうね。全体的に組織が膨大化していきますと、そこに無駄が生じ、一方において非効率なファクターが入りこむ可能性がりますね。この低成長時代に、効率性を十分に発揮するには、かなり勇気をふるわないと難しいと思います。ただ一方に於いては技術革新の激しい時代ですから、これらに対する積極的な投資により活性化を引き出すことも重要なことで、この効率化と活性化を共に推進させるために、総合的な対策を講じていく必要があるでしょうね。熊本県でも行政改革を進められているようですが、いかに効率的運営を行うかといつことと同時に、どう活性化するかを考える必要があると思ひます。